

令和5年度 滝野中学校 学校評価（最終評価）

()内は中間評価

項目	観点	重点目標（評価規準）・成果・課題・方策	教職員	生徒	保護者	
学ぶ意欲と力を高める学習指導	生徒が主体的に学ぶ授業づくり 生徒・保護者アンケート質問	実践目標	家庭学習を習慣化し復習や振り返りを行うことで、基礎的・基本的な知識技能の定着を図る	2.8		
		成果	・滝中学びのサイクルを意識した授業づくりに取り組んだ。 ・週末課題を課し、週明けに提出点検することで、家庭学習の定着を図れた。			
		課題と方策	・復習や振り返りをしていないため、基本的な知識技能が定着していない生徒が多くいる。日々の復習や振り返りを丁寧に、学力の定着を図る。 ・家庭学習の方法を各教科や教科横断的に整理し、家庭と連携して指導する必要がある。 ・タブレット等も活用し、課題の内容や評価を工夫して、生徒が自主的に学習する習慣づけに取り組む。			
			計画的、継続的に家庭学習に取り組んでいる。	(2.7)	2.8	2.6
	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	実践目標	生徒が主体的に取り組むために、課題の内容と提示の仕方や協働的な課題解決活動の工夫をする	2.9		
		成果	・ペア活動や班活動を取り入れ、学びあう習慣や意欲の向上が図れた。 ・タブレットやプリントを活用して、生徒が主体的に取り組む工夫ができた。			
		課題と方策	・教職員で「主体的な学びの姿」の共有をして、目指す姿を統一させる。 ・議論や意見交換、活動後の発表を充実させるため、話し合い活動の取り組み方を検討し工夫する。			
			授業中、ペアやグループでの学習や話し合い活動に積極的に取り組んでいる。	(2.7)	3.1	2.9
	基礎基本の定着とUDに基づいた指導	実践目標	「ねらい」「授業の流れ」を明確にし「ふりかえり」を活用した、だれもがわかりやすい授業を工夫する。	2.8		
		成果	・学習のねらいと授業の流れを示すことで、生徒が1時間の見通しと目的意識をもって授業に取り組めた。			
		課題と方策	・授業の流れを確認して、見通しをもって課題に取り組ませるために、見通しマグネットの活用を全員が徹底する。 ・明確な目標を立て、次につながる振り返りをさせる。			
				授業の「ねらい」や「学びの見通し」を意識して授業に取り組んでいる。	(2.9)	3.0
実践目標		ICTを活用した指導方法の工夫と改善をする	3.0			
成果		・各教科において、積極的にICTを活用してわかりやすい授業を目指すことができた。 ・板書とICTの効果的な組み合わせや視覚教材の提示、興味付けなど、ICTを効果的に活用できた				
課題と方策	・生徒の効果的なタブレット活用に取り組む。 ・教育用タブレットをはじめ、より効果的なICT活用の方策を探る。 ・課題を生徒同士で解決しようとする意欲につなげる工夫が必要である。					
		授業でICT機器やタブレットを効果的に学習に活用しようとしている。	(2.9)	3.2	3.1	
学習習慣の定着と学習規律の徹底	実践目標	学習規律を徹底し、主体的に学ぶとする授業改善や課題を工夫する。	2.5			
	成果	・授業開始時間など、学習規律を守ろうとする意識が高まってきた。 ・プリントを作成し、50分で学習する内容の見通しを立てさせることができた ・学ばねばならない理由や役立つことを示すことで、意欲につながった。				
	課題と方策	・学習規律が徹底できていないことが、学習習慣・学力定着の妨げになっている。改善に向けて引き続き粘り強い取組が必要である。 ・学年によって学習規律の徹底に差がある。「学習規律の徹底された授業」のイメージを共有し、統一した指導方針を提案して、全教職員が共通理解して指導する。 ・自律の力を育み、生徒たち同士で声を掛け合うなど、自分たちの課題として取り組ませたい。				
			学習規律を守り、集中して授業に取り組んでいる。	(2.4)	3.4	3.0
	実践目標	思考力・表現力を伸ばす読書活動を推進する	2.6			
	成果	・朝読書では、ほとんどの生徒が自主的に読書を始められるようになった。 ・授業で制作活動に関する資料を収集するなど、図書室を有効に利用することができた。 ・図書部による様々な企画、取組によって生徒の図書室利用回数や本の貸出数増加につながった。				
課題と方策	・本を手にとれない生徒がいる。全生徒・教職員で読書活動への意識を高める。 ・図書室を利用するだけでなく、授業内容に関する本の紹介をしてから授業に入るなど、授業に取り入れる工夫をする。 ・次年度も「読書活動推進校」である。担当を中心に全員で取り組んでいきたい。					
		朝読の時間や休み時間、家庭で、読書に親しんでいる。	(2.4)	2.9	2.5	
認め合い、高め合う集団づくり	自己有用感を育む学年・学級づくり	実践目標	共感的生徒理解と信頼関係に基づく発達支援の生徒指導、相互承認を促す教室環境や掲示を工夫する	2.9		
		成果	・生徒の感想等を掲示することで、意見の交換から相互理解が深まった。 ・学年で情報交換を日頃から行い、全員で生徒に関わる体制がとれている。			
		課題と方策	・教材研究や生徒理解のため、教師の情報交換、学年での意思統一等の時間が必要である。 ・教室の環境整備と、生徒の頑張りの軌跡が見えるような掲示をしていきたい。			
			行事や学級活動などにやりがいをもって意欲的に取り組み、仲間との絆や充実感、達成感を味わうことができた。	(2.8)	3.4	3.3
	いじめ・不登校を生まない居場所づくり	実践目標	課題未然防止教育や教育相談を充実させ、いじめや不登校の早期発見・早期対応に努める	3.3		
		成果	・フリーカード、生活実態把握調査、教育相談を丁寧に、生徒の悩みやトラブルの早期発見・早期対応ができた。 ・養護教諭による生徒への対応、別室での対応などで不登校傾向にある生徒の居場所の確保に努めた。			
		課題と方策	・不登校の課題では、対応方針に悩むことが多い。SC、SSW等と連携して研修や支援の充実を図る必要がある。 ・教職員の連携や意思疎通がもっと必要である。組織的な取組をより一層進めていく。			
			先生たちは、生活実態調査やフリーカード、教育相談などで、生徒の悩みを聞いてくれる。	(3.3)	3.4	2.9
	個々の教育的ニーズに応じた特別支援教育	実践目標	個に応じた計画的・継続的な指導・支援を実践する	3.0		
		成果	・サポートファイルを活用し、生徒の特性理解やニーズの把握に努めることができた。 ・小学校や保護者とも情報交換を丁寧に、連携した支援に努めた。			
		課題と方策	・生徒の多様なニーズに対応しきれないことがある。教職員全員で共通理解し、支え合える体制を整える。 ・個別の指導計画、支援計画をもとに、教師の連携、情報共有を密にして、継続して丁寧に指導・支援する。			
			先生たちは、生徒を理解し、一人一人の生徒に寄り添って指導してくれる。	(3.0)	3.2	3.0
自主・自立を育む活動の活性化	実践目標	生徒会・委員長会・学級活動を活性化させる	3.2			
	成果	・生徒会の自主的な取組、学年代表のリーダー育成ができた。 ・生徒会活動では、生徒の提案による新しい取組を実現することができた。 ・タブレットの活用により効率的に成果の表れる取り組みができた。				
	課題と方策	・専門部等の活動をより活性化させるためには、組織的な提案が必要である。 ・行事だけでなく、よりよい学校生活に向けての提案、取組を充実させる。				
		生徒会活動や学級活動等で、自分たちで課題を見つけ、解決のための活動を考え取り組んだ。	(2.7)	3.1	2.8	
道徳実践力と人権感覚の涵養	実践目標	教材や指導体制の工夫、研究体制を整え、充実した道徳授業を実践する	3.0			
	成果	・教材研究などで学年を越えた連携ができた。 ・事前に担任が協同で教材研究・話し合いを行い、よりよい授業づくりを目指して取り組んだ。 ・職員研修を実施し、兵庫県がすすめる道徳教育の指針について理解を深めた。				
	課題と方策	・教材研究の充実が必要である。担任が協同で話し合える時間を確保したい。 ・ローテーション授業の計画的な取組等により、授業の改善・充実を図る。				
			道徳の時間に、自分でしっかり考え、みんなの意見を聞いたり、意見交流をしたりした。	(3.1)	3.2	2.8
	実践目標	各教科、活動を通して、多様な価値観の尊重や生命尊厳、情報モラルの向上を基盤とした人権教育を実践する。	2.7			
	成果	・人権教育講演会、かとう夢授業、情報モラル講演会など生徒にとって有益な講演を聞いて課題について考える機会を多く持った。				
課題と方策	・実生活での人権意識向上のため、小さなことでも、気づかせ、適切な言動に結びつくような働きかけを継続して行う。 ・各教科・特別活動等のカリキュラムを整理して、計画的・系統的に指導できるように努める。 ・情報活用が増えた現状をふまえ、情報モラルの向上について、より一層徹底した指導が必要である。					
		一人一人を大切に、命や情報モラルなど様々な問題について考える機会があった。	(2.6)	3.4	2.9	

豊かな心と 健やかな体の育成	基本的な生活習慣の定着と凡事徹底	実践目標	挨拶、適切な言葉遣い、時間厳守、主体的な清掃活動を徹底させる	2.1					
		成果	・挨拶、言葉遣いなど以前に比べ、教師、生徒とも改善に向けた意識が見られる。						
		課題と方策	・全教職員が見本となるよう意識しつつ、共通理解を回り、同一歩調でねばり強く指導する。 ・学校全体の取組として、生徒自身がよりよくしていこうとする意識を高める活動を工夫する。 ・特に清掃ができない。意義を理解させたり、活動を工夫したりして、主体的に取り組ませたい。						
		挨拶、清掃、時間や言葉遣いなど節度ある生活を意識して学校生活を送っている。					(2.1)	3.4	3.0
	自己管理能力と体力の向上	実践目標	各教科等において、SDGsや自己管理能力の育成に向けた食育や健康教育を意識した取組を行う	2.4					
		成果	・地域と連携して、食育、心肺蘇生講習会、薬物乱用防止教室などを実施した。						
		課題と方策	・専門部の活動を活性化し、さらに食や健康的な生活に対する意識を高める活動を工夫する。 ・性教育や保健教育を含めた健康教育・食育を、教科指導と連携して計画的に実践できるよう、年間指導計画を整理する。						
		健康的な食生活や規則正しい生活、ストレスマネジメントなどについて学び、日々の生活に生かそうとしている。					(2.4)	3.1	2.9
		実践目標	不審者対応訓練、防災避難訓練、交通安全に関する取組を通して安心安全な生活への意識を高める				3.0		
		成果	・教師の不審者対応訓練を事前に実施してマニュアルや装備を見直し、生徒を含めた訓練で確認できた。 ・気象災害避難訓練（垂直避難）や防災講演会を実施し、生徒の防災意識向上を図った。						
課題と方策	・予告なしや休み時間など、状況設定を工夫して避難訓練を行い、実践力につなげる。 ・生徒の交通マナーやルールを守る意識が低い。集会での安全指導だけでなく、交通立番指導をはじめ取組の徹底が必要である。								
防災・避難訓練や交通安全指導を通して、安全安心な生活への意識が高まった。		(3.1)	3.4	3.0					
生徒の主体性や対話を重視した部活動	実践目標	生徒の主体性や対話を重視した部活動の運営を行う	3.0						
	成果	・主体的に取り組む生徒が多い。							
	課題と方策	・保護者と連携しながら、各部で目標を設定し、リーダーを中心に活動できる体制を整える。 ・生徒の主体性や思いを大切にしながら、部活動指導方針を遵守し、持続可能な活動をめざす。							
	部活動に主体性や意欲をもって取り組んでいる。					(2.9)	3.3	3.3	
家庭・地域から信頼される学校づくり	積極的な情報発信による、ともに歩む教育環境づくり	実践目標	学校だより、ホームページ、tetoruを活用した情報発信を行う	3.4					
		成果	・学校通信や学年通信、ホームページやtetoruを通して、情報発信に努めた。						
		課題と方策	・個人情報に配慮しながら、よりわかりやすくタイムリーな情報発信に努める。 ・連絡事項や写真だけでなく、担任や学年の思いを発信し、教師と保護者が同一歩調で連携をとり合いながら教育活動を行う手立てとなるようにする。						
		学校は、通信やホームページ、テトルを活用して、情報を発信している。					(3.0)	3.3	3.3
	地域・家庭との連携の強化	実践目標	家庭や地域と連携して生徒の成長を促す取組や関わりを持ち情報を共有する	2.9					
		成果	・丁寧な家庭連絡を心がけ、トラブルも保護者との連携の機会として信頼関係を築くことができた。						
		課題と方策	・丁寧な、相手を思いやる対応を心がけ、きめ細やかな連絡を行う。 ・地域と連携して、地域で子どもを育てる機会を増やしていきたい。						
		先生たちは親と協力して、生徒の成長のために関わろうとしている。					(2.9)	3.2	3.1
	ハラスメントのない、心身ともに健康で心の通った学校づくり	実践目標	体罰・ハラスメント防止研修を行うとともに、注意・相談できる職場づくりに努める	3.3					
		成果	・ハラスメント研修や自己チェックを定期的に行うことで、教職員のハラスメントへの意識が向上した。						
課題と方策		・生徒・保護者・教職員を問わず、常に人を大切にされた言動を心がける。 ・不安や悩みを一人で抱え込まず、相談・注意しあえる教職員関係・職場づくりを行う。							
先生たちは、授業中に生徒を呼び捨てにせず「さん、くん」づけて呼んでいる。		(3.1)	3.0				3.2		
小中一貫教育の推進	9年間を見通した育てたい力・学びの姿の共有	実践目標	9年間の学習のつながりを意識した系統性・連続性のある指導、共通指導事項の検討やカリキュラムの実践を行う	2.6					
		成果	・小学校での学びを生かした導入や復習を取り入れ、小中のつながりを意識した授業が行えた。 ・出前授業を通して、小中教員がともに授業づくりや指導方法、児童生徒の状況について研修する機会が持てた。						
		課題と方策	・9年間の小中一貫教育カリキュラムや小学校教科書を活用して、各教科の指導実践につなげる。 ・校内教科部会、小中合同での担当者会や研究授業、出前授業での学びを広げ、充実を図る。 ・生活習慣や学校ルールなど、子どもの姿を共有しながら共通指導に向けた取組をすすめる。						
		学習習慣や話し方・聞き方、家庭学習の仕方など、これまで身につけてきたことを継続・発展させようとして取り組んでいる。					(2.5)	3.3	2.7
	交流活動の推進	実践目標	「出前授業」や児童会・生徒会交流等で育てたい力・学びの姿を共有し学習・生活習慣を意識した取組を行う	2.8					
		成果	・SNSルール作成に向けて、両小学校児童会と生徒会の意見交換会を実施することができた。 ・出前授業を行うことで、教師自身の学びにつながり得るものが多くあった。						
課題と方策		・出前授業により多くの教職員がかかわることで、取組の充実を図る。研修をはじめ、教職員の交流を進める。 ・児童生徒の交流活動を促すため、児童会と生徒会の交流会を実施する。 ・小学校と連携した読書活動推進のため、小中の作品交流や交流活動を計画し、実践する。	(2.7)						
業務改善・働き方改革の推進	先を見た計画的な取組の推進	実践目標	年間行事予定を確認し、早めに時期や内容を計画し提案する	2.6					
		成果	・提案事項について早めの検討を行うことで、会議がスムーズに行われた。						
		課題と方策	・各自の仕事の仕方を工夫し改善する。後の仕事や全体を考えて、計画的に早めに取り組むことを心がける。 ・効率よく、効果的に業務が行えるように、時程や実施方法の検討を継続して行う。						
							(2.6)		
	助け合い・支え合い意識と習慣の改善	実践目標	情報共有し協働しようとする組織づくりに努め、一人一人の能力やよさが発揮される学校・学年経営を行う	2.8					
		成果	・多忙でありながらも、教職員間で協力して業務を行うことができた。						
		課題と方策	・情報交換を密にする。一教師で抱え込まず、学年団を中心に対処を検討、共有して実践する。 ・業務量が偏らないように校務分掌等を検討する。 ・互いにサポートしあったり、相談したりできる教職員集団をめざし、コミュニケーションを大切にする。						
		先生たちは、自分のよさを発揮しながら、力を合わせて教育活動に取り組んでいる。					(2.8)	3.3	2.9